

**製品名: TPA 組織プラスミノゲン活性化因子ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe86548**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.09mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:100-1:1000
分子量	Calculated MW:63 kDa; Observed MW:63 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	TPA Tissue Plasminogen Activator
別名	TPA; T-PA
遺伝子 ID	5327
SwissProt ID	P00750
免疫原	ヒト TPA 組織プラスミノゲン活性化因子の合成ペプチド

**背景**

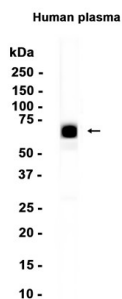
この遺伝子は、組織型プラスミノゲン活性化因子（分泌型セリンプロテアーゼ）をコードしています。この活性化因子は、プロ酵

素プラスミノゲンを線溶酵素プラスミンに変換するものです。コードされているプレプロタンパク質は、プラスミンまたはトリプシンによってタンパク質分解され、重鎖と軽鎖を生成します。これらの鎖はジスルフィド結合を介して会合し、ヘテロ二量体酵素を形成します。この酵素は、細胞遊走および組織リモデリングにおいて役割を果たします。酵素活性の上昇は線溶亢進を引き起こし、過剰な出血として現れます。一方、酵素活性の低下は線溶低下を引き起こし、血栓症または塞栓症につながる可能性があります。この遺伝子の選択的スプライシングにより複数の転写バリエーションが生じ、そのうち少なくとも1つはタンパク質分解によって処理されるアイソフォームをコードしています。[RefSeq 提供、2016年1月]

## 研究分野

-

## 画像データ



TPA 組織プラスミノゲン活性化因子ウサギモノクローナル抗体 (1:1000) を使用したヒト血漿組織抽出物のウエスタンブロット分析。